

vol.100



Terasawa Hiroko
寺澤 洋子

筑波大学 図書館情報メディア系
准教授

Profile

埼玉県出身。2002年 電気通信大学大学院
電気通信学研究科修士課程修了。10年 米国
スタンフォード大学音楽学科博士課程修了。
Ph.D. (Music)。筑波大学TARAセンター研究
員、東京藝術大学非常勤講師、筑波大学図書館
情報メディア系助教、JSTさきがけ研究者を
経て、20年より現職。

自分の気持ちを聴いて



Q1. 研究テーマを選んだきっかけは？

A1. 高3の時に新聞記事を読んで

子供の頃からピアノと合唱を習い、音への興味はもちろん、周波数や音階といった音響学に関わる用語にも親しみがありました。音楽か音響学かで進路に迷っていた高校3年生の時、新聞の日曜版でIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)のことを知りました。世界中から研究者が集い、音の作り方や伝わり方の研究をしているという記事を読み、「いつかそこに行きたい!」と夢を抱いたのです。音響学を学べる研究室のある電気通信大学に進学し、フランスへの交換留学を目指しました。学部4年生でENST(フランス国立高等電気通信学校)へ留学し、IRCAMとの共同研究に参加することになり、あっという間に夢がかなってしまいました。やりたいという気持ちは実現につながりますね。この時の音のモデル化やシミュレーション、



環境音を採取している様子

心理評価というテーマが縁となり、スタンフォード大学の博士課程に進学することになりました。

Q2. 研究者を目指す人へのメッセージ

A2. 楽しいと感じることをやってみて

自分自身は音響学にこだわってききましたが、大学生までは視点の変化も必要です。自分の感情に素直に、楽しいと感じることをたくさんやってみてください。始めてみないと挫折さえできません。

フランス留学の際、大学院生たちが奨学金を受けながら研究生活をとても楽しんでいたのが印象的でした。高校卒業後は奨学制度で学びキャリアを積んだ母からは「修士までは学費を出す」と言われました。学費、生活費の支給も魅力でスタンフォード大学の博士課程へ進学しました。カリフォルニアの明るい太陽の下、楽しく充実した研究生活でした。研究が進み、学会の賞や奨学金で数百ドル、数千ドルをいただくたびに手応えと自信を感じ、研究者のキャリアをつないでこられたと思います。日本でも、大学院生が小さな成功体験を積み重ねて自信をつけられる仕組みが増えるといいですね。

Q3. 研究と人生の今後は？

A3. 友情を大切に、新たな夢を

さきがけ研究者の時に産し、子育てのため海外に行きにくくなりましたが、海外の研究者を大学に受け入れて交流を深めています。スタンフォード大学で同窓だったリウ・イーウェン教授を長期滞在で受け入れたのがきっかけで、現在の日本-台湾の研究交流につながりました。友情は全てのベースですね。

休日は子供のアレルギー対策でシーツの洗濯と掃除機かけから始まるのですが、庭づくりが趣味でバラを植えたりして楽しんでいます。研究者になりたい一心ですと自転車操業でしたが、任期なし雇用に移行し子供も小学生になり、ようやく落ち着いて研究できる状況になってきました。ここからは、少し時間を取って今後のいろいろなキャリアの可能性、新しい夢を探してみたいと思っています。



JSTは、シンクタンク機能、研究開発、産学連携、次世代人材育成、科学と社会との対話など、多岐にわたる事業を通じて、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に積極的に貢献していきます。



編集 長: 安孫子満広
科学技術振興機構(JST)広報課
制 作: 株式会社伝創社
印刷・製本: 株式会社丸井工文社



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



古紙リサイクル率70%再生紙を使用

JSTnews

February 2021

発行日/令和3年2月1日
編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー